

NANOMIX の医化学的検証データ

第 30 回日本臨床免疫学会総会抄録集より

2002 年 12 月 3～4 日に東京で総会開催されました

発表者：医学博士 渡邊隆司教授

臨床試験画像：マウス炎症試験【ナノミックス材料クリーム使用】

↑あくまでも臨床試験の一部ですから＜正確を期す為です＞

皮膚創傷皮下組織像

第 32 回日本臨床免疫学科総会にて発表

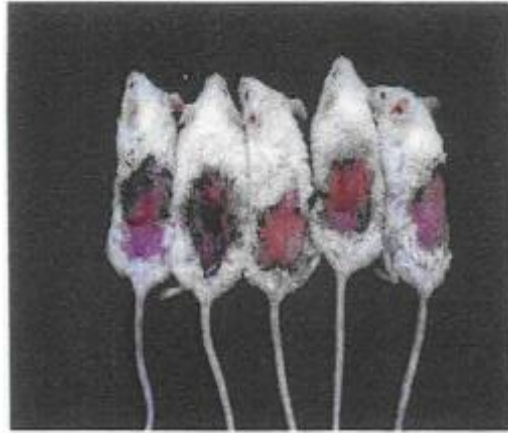
2004 年 10 月 8 日～9 日に東京で総会開催されました

発表者：医学博士 渡邊隆司教授臨床試験画像

臨床試験画像

医学博士 渡邊教授の指導にて 鈴鹿医療科学大学にて

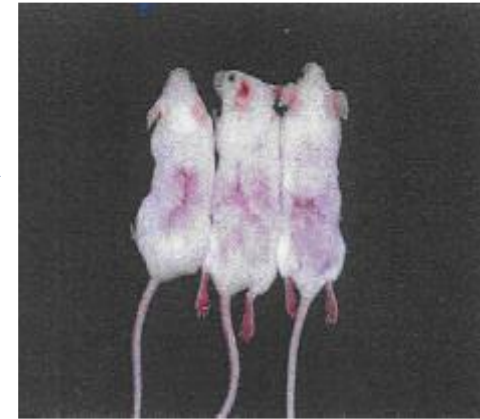
火傷直後



ナノミックス繊維使用



3週間後



何もせず3週間



ナノミックスで包んだラットは顕著に回復

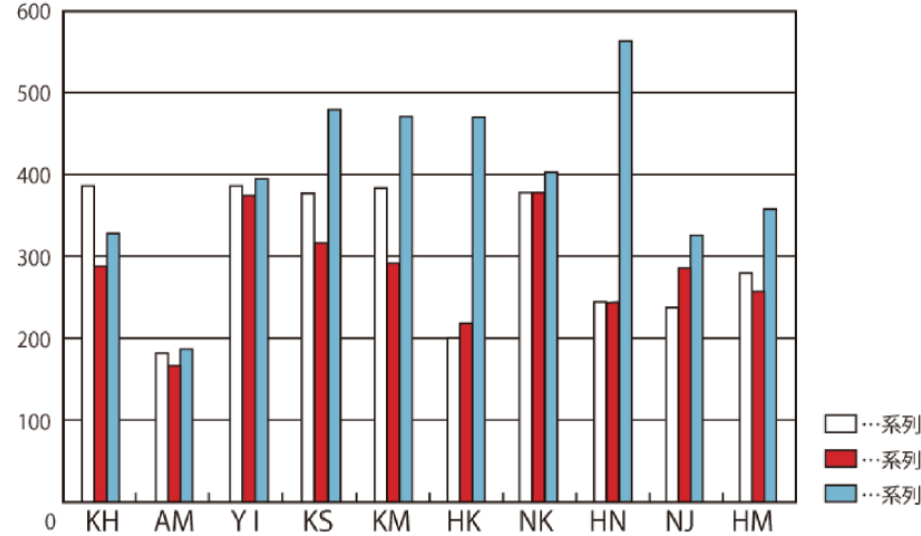
この繊維のもつ機能性については、**第32回日本臨床免疫学会総会**(2004年10月8日)に発表されました。

NANOMIX の免疫能賦活に関する基礎的検討①

研 究 者：杉山保幸（岐阜大学医学部附属病院）

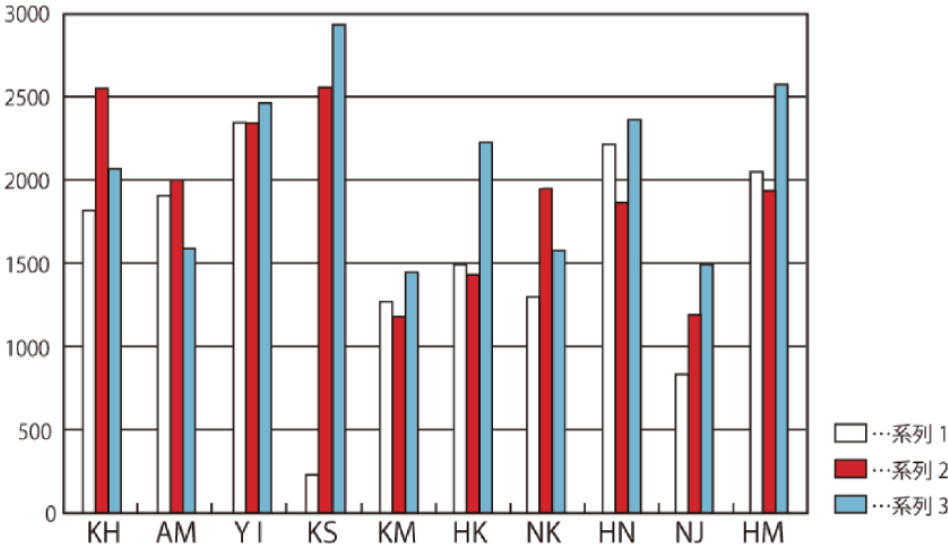
資料提供者：神谷悟氏（神谷マテリアル）

＜単球数＞



	4月5日	4月6日	4月7日	
KH	380	290	330	1.13793103
AM	180	160	190	1.1875
YI	380	370	390	1.05405405
KS	370	320	470	1.46875
KM	380	290	460	1.5862069
HK	200	230	460	2
NK	370	370	400	1.08108108
HN	250	250	560	2.24
NJ	240	280	320	1.14285714
HM	280	260	350	1.34615385
合計	3030	2820	3930	1.39361702
平均	303	282	393	平均 1.29 倍

＜リンパ球数＞



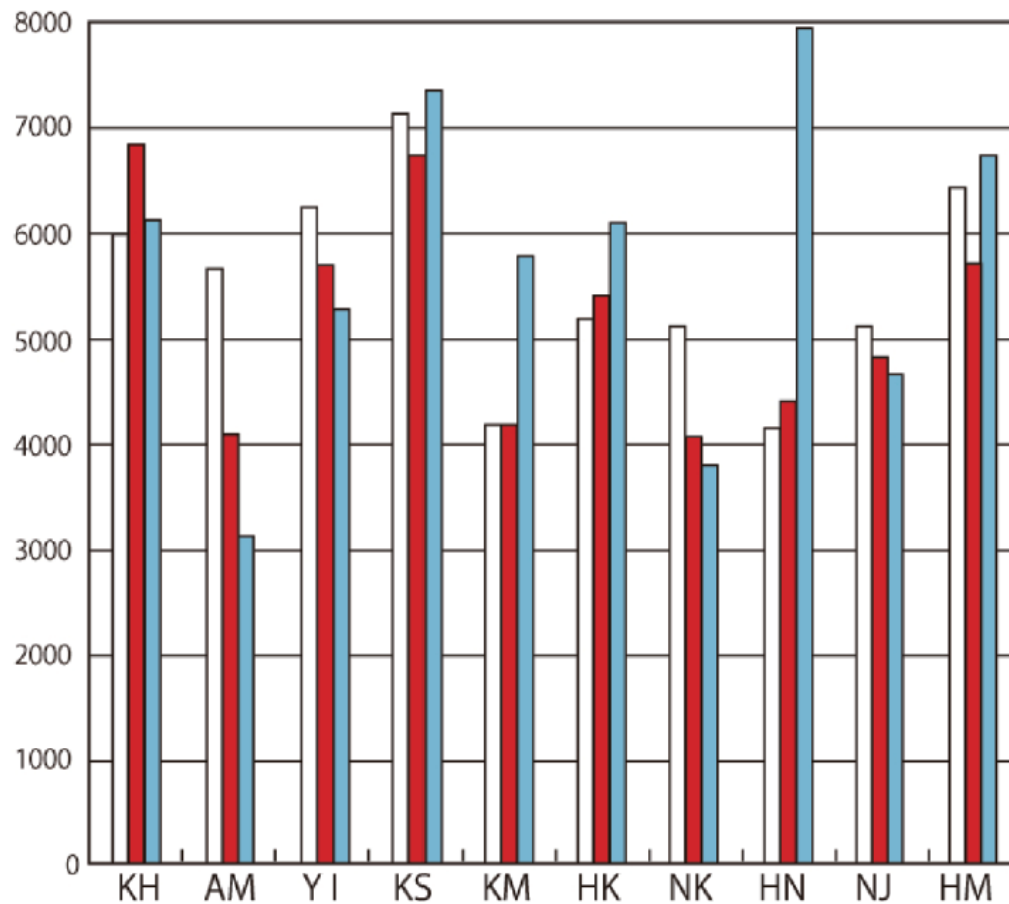
	4月5日	4月6日	4月7日
KH	1850	2610	2110
AM	1830	1990	1640
YI	2360	2360	2470
KS	286	2520	2940
KM	1310	1230	1430
HK	1480	1320	2250
NK	1390	1950	1600
HN	2140	1820	2350
NJ	790	1210	1510
HM	2110	1890	2530

NANOMIX の免疫能賦活に関する基礎的検討②

研究者：杉山保幸（岐阜大学医学部附属病院）

資料提供者：神谷悟氏（神谷マテリアル）

<白血球数>



	4月5日	4月6日	4月7日
KH	6000	6830	6100
AM	5510	4110	3220
YI	6190	5680	5420
KS	7060	6610	7200
KM	4470	4480	5850
HK	5180	5480	6030
NK	5310	4110	3890
HN	4300	4450	7920
NJ	5050	4720	4510
HM	6560	5650	6750

□ …系列 1
■ …系列 2
■ …系列 3

NANOMIX のウェア着用が乳酸値に及ぼす効果試験

実験結果

- (1) 対象群：コントロールウェアでは運動後の乳酸値の減少の平均値は 0.8mmol/L であった。
- (2) NANOMIX のウェアを着用すると、同じ運動量に対して乳酸値の減少は、平均 3.7mmol/L であった。

考察

NANOMIX のウェアを着用することによって、同じ運動量に対して、普段着より疲労感を感じないでパフォーマンスを上げる事が示唆された。

		被験者				乳酸値の平均値
		A	B	C	D	
コントロール	運動 15 分間終了後の乳酸 (mmol/L)	4.1	6.7	2.3	5.8	4.7
	コントロール着用 30 分経過後の乳酸 (mmol/L)	3	6.2	1.2	5	3.9
NANOMIX	運動 15 分間終了後の乳酸 (mmol/L)	6.3	9.6	3.4	8.8	7.0
	NANOMIX 着用 30 分経過後の乳酸 (mmol/L)	2.7	3.8	2.1	4.7	3.3

	被験者				乳酸値の平均値
	A	B	C	D	
運動終了後の乳酸値と運動終了後 30 分経過した時の乳酸値の減少差 (mmol/L)	1.1	0.5	1.1	0.8	0.8

運動終了後の乳酸値と運動終了後に NANOMIX を着用して 30 分経過後の乳酸値の減少差 (mmol/L)	3.6	5.8	1.3	4.1	3.7
---	-----	-----	-----	-----	-----

測定日 ：平成 30 年 2 月 23 日
実験者・報告書作成者：東京生体健康科学研究所
元玉川大学教授 工学博士 寺沢充夫
確認者：遠赤外線応用研究会

NANOMIX 生地による抗酸化力測定

測定結果

生地浸漬による残留塩素濃度測定結果

	初期濃度	10 分後	20 分後	30 分後	低下率
ナノミックス 43% 糸	0.67	0.50	0.44	0.38	43.3%
ナノミックス 100% 糸	0.67	0.17	0.04	0.02	97.0%
コントロール	0.67	0.66	0.64	0.58	13.4%

(単位：ppm)

有意性

2 試料とも残留塩素濃度が低下する事が判明した。特にナノミックス 100% 糸の低下率は 97.0% であった。このことから、生地ナノミックスは酸化から還元方向が高まる事が示唆された。

なお、測定は 3 回ずつ実施し、その平均値とした。

No218c-322

測定日：平成 30 年 3 月 11 日

測定機関：遠赤外線応用研究会